様式3

学校番号 83

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立田川高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	校訓「水平線上に突起をつくれ」の精神を重んじ、いかなる時代にあっても五常の徳目『仁・義・礼・智・信』を有し、地域はもとより国際社会に貢献する人物の育成に努める。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
令和5年度入試では、なんとか定員を満たすことができたが、第11学区は中学生数の減少、他学区への流出、そして、私学入試の影響によって今後も厳しい状況が続くと思われる。今後、地域をリードし、選ばれる県立高校であり続けるためには、学区内の中学校との連携をより強固なものとし、地域から信頼されることが重要である。そのためには、入学した生徒一人一人に充実した高校生活を保障し、難関大学をはじめとする希望進路の実現を目指し、新校舎や一人一台端末を含むICTを活用した「新たな学び」を積極的に取り入れ、教育活動のさらなる充実を図るとともに、生徒の生き生きとした学校生活の様子を地域へ発信する必要がある。 また、高校教育改革、高大接続改革、教員の働き方改革、部活動の在り方の工夫等、県立高校に求められる課題を整理し、具体策を着実に実施して、教職員全員で課題解決に取り組む。	自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任を持つことができる、主体性に富んだ人物の育成。	職員研修等により教師の指導力向上を目指し、教育活動全体を通して生徒の「生きる力」を育む。	
	規律と責任を重んずる人物の育成。	挨拶の励行や、校則の遵守等、家庭と共同して基本的生活習慣の確立と社会の規範意識の形成に努めるとともにボランティア活動にも積極的に取り組む生徒の育成に努める。	
	人権尊重の理念と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな人物の育成。	教育相談機能を充実させるとともに、心の教育の推進に努め、人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努め、安全・安心な学校づくりを目指す。	
	真理を探究することの喜びを体得できる人物の育成。	全校あげて「新たな学び」に基づく授業改善に努め、質の高い授業を実践する。「総合的な探究の時間」で新たな取組を創出する。	
	自己の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる人物の育成。	スーパー特進クラスの充実・発展に努めるとともに、全生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、個に応じた指導を徹底する。	
	志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つたくましい人物の育成。	「水平線上に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成するため部活動加入率80%を目指すとともに、スーパー特進クラスが高い志を持ち、学習面において本校の牽引役となるよう指導に努める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	「わかる授業」を実施し、生徒の学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	一人一台端末を含むICTを活用した「わかる授業」や、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。				
		毎学期1回、生徒に授業アンケートを実施し、授業改善に役立てる。				
		適切な評価を行い、生徒の学習意欲を高め、学習習慣の確立を図る。				
	ホームページや広報誌を活用した広報活動を積極的に行う。	「田川高校へ行こう」を年2回以上作成し、小学校、中学校等へ配布する。				
		ホームページの充実を図る。田川高校の日々の教育活動等を掲載することで、本校の魅力を発信する。				
		中学校別の中学生・保護者向けの学校説明会、学校見学会を実施する。				
	PTAと連携し、教育環境の整備や学校行事の充実を目指す。	PTAとの連携を密にするため、年7回の役員会を実施する。				
		年2回以上の交通安全指導を実施する。				
		PTA新聞「嶽南の風」を年3回発刊する。				
生徒指導	規律と責任を重んじ、主体的な判断と行動ができる生徒を育成する。	一人ひとりが田川高校の代表であるという自覚をもたせ、礼儀とマナーを身に付けさせる。教員自らも規範となる。				
		生徒自ら校則を遵守でき、規範意識が高まる工夫や手立てを行う（セルフチェック、各種講演等）。				
	生徒一人ひとりがそれぞれの資質と能力を発揮し、活躍でき、また互いを認め合う学校づくりをする。	必要に応じ教員が支援しながら、生徒主体で学校行事等に取り組ませる。				
		教員は生徒の資質・適性・能力等を見極め、それぞれが活躍できる場・居場所づくりに努める。				
	「いじめ見逃し及び重大事態ゼロ」を目指し、安心・安全な学校づくりに尽力する。	生徒の些細な変化にも気づき、いじめの疑いの段階から情報を共有し、未然防止・早期発見・早期対処に努める。				
		組織的な対応を行い、生徒の家庭はもちろん、必要に応じスクールカウンセラー等と連携を図る。				
	教育活動を安全かつ効果的に推進するため、校内美化及び教育環境の整備を図る。	職員に危機管理マニュアルを周知し、危険等に早期に、適切に対処できるようにする。				
		掃除手順を確認し、清掃美化や整理整頓に努め、望ましい学習環境づくりを徹底する。				
	感染症対策を徹底し、健康意識の高揚と健康管理の推進に努める。	新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症に対しての予防対策を徹底する。				
		校内外における事故防止に努めるため、安全教育（交通含む）、安全管理の徹底を図る。				
進路指導	地域に根ざした進学校として、学力の伸長と徹底した進路指導に努め、生徒や保護者、地域の信頼にこたえる。 3年間をとおしたキャリア教育を実施する。	同窓会、地域、企業等と連携し、地域の信頼にこたえる生徒の育成を目指す。				
		卒業生の進路状況を集約し、地域や小中学校へ発信する。(広報課と連携)				
		オープンキャンパス、出前講義等への参加を推奨し、広い視野で自分の将来を考える一助とする。				
	進路目標達成のための基礎学力の養成および計画的、組織的な教科指導を徹底する。	模擬試験、課外授業、長期休業時の講習等を計画し、効果的な実施を図る。				
		教務部との連携により「学びの基礎診断」を実施し、生徒の状況を把握し各教科毎の指導方針策定の一助とする。				
		学校推薦型（推薦）, 総合選抜型（AO)など、生徒の特性にあった入試に向けての指導を充実させる。				
	希望進路実現に向けての、個に応じた指導の充実を図る。	個別面談を密に実施し、生徒の志望と現在位置の確認を随時把握する。				
		学びの基礎診断の結果を分析し、生徒個々の状況を客観的に把握し、適切な進路へと導く。				
	進路意識高揚のための進路情報の収集とその提供、変化する入試についての情報収集、及び対応に向けた取組みを実施する。	卒業生による進路講演会やシンポジウムなどを企画し進路意識の高揚を図る。				
		新課程入試に対応するための情報を収集する。（大学・学部・学科の動向(受験科目)、教科「情報」の動向）				
		各学年、英語科との連携を通して、英語外部検定の積極的受検、英語4技能への対応を促進する。				
	職員研修の充実と職員間の情報交換により、生徒との関係作りを図る。	入試傾向や実態の把握。小論文指導は全職員で対応する。				
		外部機関が実施する教員研修セミナー等の案内を行い、教員の指導力向上を図る。				
		研究授業について、ICT活用やアクティブラーニングも検討しながら、職員間の交流の機会とし、授業力の向上を目指す。				
		放課後の部活動公開等を通して、田川地区の中学校との関係構築を図り、地域に根ざす本校の教育活動を発信する。				
		今後の学習指導の方向性を定期的に協議し、次年度以降につなぐ。				
第1学年	基本的生活習慣を確立する。	朝課外、授業、部活動、家庭学習と田川高校生としての1日の流れを計画し実行する。				
		集団生活を意識した時間厳守を徹底する。				
	希望進路を早期に明確化する。	進路意識の向上のための進路学習や面談を通した進路指導を充実させる。				
		希望進路実現に向けた自己に応じた学習活動を身に付けさせる。				
	自分と他者を大切にする集団づくりに努める。	いつでも相談できるという、教員と生徒の信頼関係を構築する。				
		学習活動や部活動に励み、共に高め合う集団を育成する。				
第2学年	学力の向上と学習習慣の定着を徹底する。自身の目標達成のために、正しい努力ができる集団の育成	学力向上、部活動、学校行事等において小さなことから目標設定を行い、そのための時間の使い方、方法、強度を計画し実行し反省する流れを作りあげる。				
		成績を可視化して自分を見つめなおし、具体的な目標を掲げられるようにする。				
	自覚・責任・誇りを持たせ、自律した人としての素養を育ませる	「時間厳守」「挨拶の励行」「美化意識の向上」を目指し、日々の生活の見直しを図る。				
		修学旅行を踏まえて集団の中での自分を見つめ、帰属意識向上を図る。				
	具体的な進路目標を掲げて、その実現に向けた学力の育成	授業の工夫と充実を図りながら、志望校研究やオープンキャンパスへの参加を促す。				
		学習習慣、苦手教科に関する情報を随時集め、担任面談を通じて意識の向上を図る。				
第3学年	進路実現に向けた学力の向上	習熟（希望進路別）に応じたクラス編成を弾力的におこない、生徒の実態に即した指導を展開する。				
		模試を活用して生徒の学力の推移を把握し、個に応じた指導を推進する。				
	最上級生としての主体的行動の実践	積極的生徒指導を展開し、最上級生として自らルールを尊重し取るべき行動を判断できるように教育活動全体で指導していく。				
		生徒会執行部を中心に生徒が主体となった学校行事の計画、実施を支援する。				
	希望進路の実現	小論文・面接指導を早期に計画し、進路指導部とも連携しながら学校全体での指導体制を構築していく。				
		進路検討会を定期的に開催し、情報の共有をはかるとともに、複数の視点で進路指導にあたる。				
人権・同和教育	校内及び校外の連携を強化して人権・同和教育を推進する。	教育活動のあらゆる場面で人権・同和教育の視点を確立するため、各分掌・各学年・各教科と日常的に連携を図る。				
		生徒の諸課題を解決するためにSCや小中学校・地域との連携を取り, 学級担任と協力して家庭訪問を積極的に行う。				
	人権感の高い学校づくりに努める。	教員が差別の現実に学ぶことができるよう、研修を企画・運営するとともに、外部の研修等の積極的な参加（1回以上）を促す。				
		生徒の科学的認識を高め、差別を許さない姿勢が身に付くような人権学習を実施するために、指導法・教材の研究を行う。				
		毎日の授業が学力保障・人権感覚の育成につながるように、教科の特性を生かした人権・同和教育を推進する。				
	修学支援を行い, 生徒の学習機会の保障する。	経済的に厳しい家庭の生徒を支援するため、給付型をはじめとする各種奨学金を周知し、積極的な活用を促す。				
		個別の配慮を要する生徒が安心して過ごせるよう、学校全体で支援するために研修会を実施し共通認識・情報共有を図る。				
		地域の活動を行う生徒が反差別の行動力を高められるように、諸活動を関係職員で支援する。				
事務室	経営参加型の事務室業務を推進する。	生徒に安全・安心な教育環境を提供できるよう、効果的な予算の編成・執行を行い、施設・設備の充実を図る。				
		各分掌との情報の共有化を図り、学校経営目標の実現ため効率的な事務処理を行う。				
		生徒・保護者等に対し、分かりやすい内容で的確かつ迅速に情報発信を行う。				

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策